

田めになる学校 フィールドイズが佐渡で開催されました

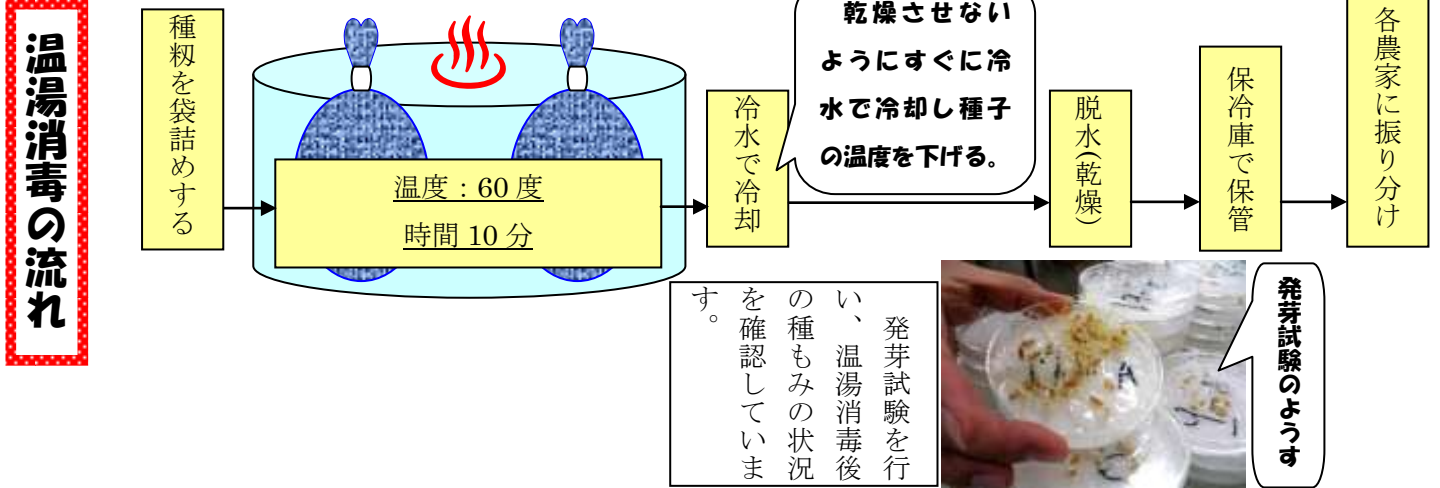
2月2・3日の2日間、「第2回世界一田めになる学校・フィールドイズ」が佐渡で開催されました。これは平成22年から東京大学で行なっている「世界一田めになる学校」の発展イベントとして行われたもので、当日は宮城県大崎市・兵庫県豊岡市から11名の子供たちが佐渡を訪れ、地元の子供6名と一緒に未来を担う子供たちの視点で、田んぼと湿地の生物多様性を議論する場となりました。

1日目は田んぼやトキの施設・湖のほとりなどに行き、2日目にその場で聞いた『音』や感じたことを絵で描いて発表し合いました。「ドンドンドンと何かを叩きたくなるような音がしたよ」「びちゃびちゃって、田んぼに入るときの音がした」「びちゃってという気持ち悪い感じの音がした」子供たちは、感じた事（音）を、楽しそうに発表していました。



温湯消毒作業で大忙しです

JA佐渡では平成20年より農家に供給する種もみ全てで「温湯消毒」を実施しています。JAで「温湯消毒」を一括して行う事で、これまでは農家個人が行っていた農薬による種もみ消毒が行われないので、環境にやさしくて農家の手間が少なくて良いという利点があります。「温湯消毒」は、文字どおり一定温度の湯の中に一定時間浸すもので、農薬の殺菌（消毒）に近い効果が見込まれるのです。1ヵ月以上かけて1日に6トン、合計180トンの種籾を消毒しています。



佐渡の子供たちが作ってくれました。

佐渡市立河崎小学校5年生のみなさんが、総合学習の時間に佐渡米について勉強してまとめたパンフレットができました。また、お米屋さん店頭においてもらい消費者の皆様にPRするためのチラシもできました。美味しい佐渡のお米をたくさんの人に知ってほしいという願いが込められています。詳細については、JA佐渡HPの「たんぼにつき」からご確認ください。



3月30日に一般公開予定の新施設「トキふれあいプラザ」で1月17日よりトキ4羽の飼育が始まりました。この新施設は、自然に近い大型のゲージがマジックミラーで囲まれているのでトキの飛翔・採餌・巣作りなどを間近で観察することができます。